

第89回日本結核病学会総会
アフターヌーンセミナー 1 のご案内



演題

抗酸菌核酸増幅検査の展望

座長

大崎 能伸 先生 (旭川医科大学病院呼吸器センター)

演者

松本 智成 先生 (大阪府結核予防会大阪病院 診断検査部)



日時

2014年 5月9日(金) 15時00分~15時50分

会場

D会場

(長良川国際会議場 5F 国際会議室)



●本学会付設展示会 東ソーブースにて弊社製品を展示しております。
是非お立ち寄りください。

共催： 第89回日本結核病学会総会 / 東ソー株式会社



演題 抗酸菌核酸増幅検査の展望

座長 大崎 能伸 (旭川医科大学病院呼吸器センター)

演者 松本 智成 (大阪府結核予防会大阪病院 診断検査部)

抄録 結核診断のゴールドスタンダードは菌の培養による検出である。培養による抗酸菌の検出により菌同定検査、薬剤感受性検査へと一連の抗酸菌検査の流れが始まる。抗酸菌とくに結核菌と他の一般細菌の培養法の大きな違いは、一般細菌培養は数日以内で培養結果が出るのに対して、結核菌は増殖速度が遅いが故に培養日数が数週から月単位を要する事である。この遅さ故に核酸増幅検査が結核診断では一般細菌と比較して特に有用になってくる。

核酸増幅検査の利点は迅速に結果を判定出来る事であり、おおむね1日以内に結果がでる事がほとんどである。しかしながら、1回1回独立に検査できない試薬で、ランニングコストが高いが故に検体をまとめて処理した方が良い場合が有り施設によっては週に数回しか検査を行わない場合も有り注意を要する。

核酸増幅検査の検出感度は、培養検査のそれと同等かやや劣ると言われている。そのため原則として塗抹陽性となった検体を核酸増幅検査にて結核菌かその他の抗酸菌かを調べる。

核酸増幅検査の欠点としては、生菌・死菌の判別が出来ないという点、リファンピシン以外の薬剤感受性検査の信頼性が低い点があげられる。この為に核酸増幅法検査は初期の診断時にのみに用いられ治療効果判定には用いられない。また、現時点では核酸増幅法による薬剤感受性検査の信頼性が乏しいため必ず培養検査も同時に行い、さらに感受性検査を行うようにする。

現在4種類ほどの核酸増幅検査法が利用可能でありさらに増える見込みである。今後どの核酸増幅法を選択法が重要になってくる。核酸抗酸菌増幅検査の工程には、検体前検査、核酸抽出、増幅/検出の工程がある。それぞれの検査法において、各工程において優劣が存在するため施設の目的にあった検査法を導入する。

抗酸菌核酸増幅検査法の将来的な目標であるが、完全に培養法にとって変わることである。すなわち死菌生菌の区別、ならびに主要な抗結核薬にたいする遺伝子変異検出による薬剤感受性の予測である。また、技術的な課題として喀痰をそのまま前処理することなしに全自動で検査ができることが目標となる。

このセミナーでは、医師、看護師、検査技師に必要な核酸検査増幅法の知識を述べていく。

第 89 回 日本結核病学会総会 企業展示のご案内

会期 2014年
5月 9日(金) 9:00~18:30
5月 10日(土) 8:30~17:00

出展予定品 遺伝子検査システム
TRCRapid-160

会場 長良川国際会議場 1F 市民ギャラリー



東ソー株式会社
バイオサイエンス事業部

東京本社 ☎(03)5427-5181
名古屋支店 ☎(052)211-5730
仙台支店 ☎(022)266-2341
バイオサイエンス事業部ホームページ

大阪支店 ☎(06)6209-1948
福岡支店 ☎(092)781-0481
山口営業所 ☎(0834)63-9888

<http://www.tosoh.co.jp/science/>